

平成30年 栃木市長 新年の抱負（要旨）

○年頭のあいさつ

○定住促進について

- ・田舎暮らし専門誌「田舎暮らしの本」（宝島社）の2月号の特集記事「住みたい田舎ベストランキング」の『若者世代部門』において、栃木市が2年連続全国1位を達成した。
- ・また、『子育て世代部門』『シニア世代部門』の2部門は全国2位、総合順位は、昨年の全国13位から大きく順位を上げ、総合全国3位の高評価を得られた。
- ・本市の移住・定住施策のほか、これまで取り組んできた各種施策が功を奏していることの表れと感じている。実際、人口の社会増減で見ると平成24年度から5年連続で、栃木市への転入した人数が、栃木市から転出した人数よりも、上回る傾向になっている。
- ・定住を促進するためには、結局は住環境や教育・養育・福祉制度の充実、農・工・商等の産業の発展と雇用の場の確保など、多方面にわたる制度や支援策が重要であることから、今年も引き続き全庁を挙げて取り組んでまいります。

○地方都市リノベーション事業について

- ・この事業は、旧栃木市役所本庁舎の跡地と旧栃木中央小学校の跡地を活用して、美術館や保育園などを整備する事業で平成28年度から実施。
- ・旧栃木中央小学校跡地に整備する「くらのまち保育園」は、いりふね保育園とそのべ保育園を統合するもので、建物の工事が完了し、現在は園庭の整備を進めており、本年4月1日の開園を予定。
- ・「地域交流センター」は、旧栃木中央小学校の校舎を改修して、市民の方をはじめ多くの方々に生涯学習活動などに利用できる施設。アンケートから、調理室や音楽室・スタジオ、交流室を整備。本年4月から工事を開始し、平成32年4月の開館を予定。
- ・解体が完了した旧栃木市役所本庁舎跡地には、この事業の核となる「(仮称)文化芸術館」や、市の文化財である旧市役所別館のレトロな雰囲気を生かした「(仮称)文学館」についても、本格的な設計を進め今年中には工事に着手する
- ・この場所から、多くの事業やアイデアが生まれ、新しい栃木市の魅力として巣立っていくことを、大いに期待する。

○子育て支援施策について（子どもの遊び場整備）

- ・本市総合計画に掲げられた「市民ニーズに応える子育て支援環境の整備」の一つとして、「子どもの遊び場」の整備計画を進めている。
- ・屋内で長時間自由に遊べる場所が少なく、季節や天候に関係なく遊べる大型の屋内遊戯施設の整備が子育て世代からの要望として寄せられていた。
- ・「子どもの遊び場」は、子どもの成長過程で楽しめる多種多様な遊具を備えるとともに、中心市街地の活性化や世代間交流もはかれる施設として整備する。

○結び

このほかにも、より住みよいまちにするための「都市整備事業の促進」や市のマスコットキャラクター「とち介」を先頭に市民の皆様と一緒にシティプロモーションを進め、様々な観点から、まちづくりを進めていく。

また、市内各地域では、地域予算や地域会議などの新たな地域自治制度も浸透してきた。地域の特色ある事業を自ら担っていただく実働組織も、着々と立ち上がっている。市民協働のまちづくりが、着実に進んでいると感じる。

これまでの新しいまちづくりの段階が、「ホップ」・「ステップ」であったとすれば、本年以降はいよいよ「ジャンプ」の段階に入る。

「自然・歴史・文化が息づきみんなが笑顔のあったか栃木市」を目指して、広域的な視点に立ったまちづくりを展開すると同時に、市内各地域の均衡あるまちづくり、健全な財政運営、そして栃木市民としての一体感の醸成にも十分に配慮しながら、市民の皆様と共にまちづくりに取り組んでいく。

シティプロモーション課
担当 福田
電話 0282-21-2315